



CSR報告書

私たちは、
地球環境の保全と
資源の再生を考えます。



代表挨拶

中野運輸は1922年(大正11年)に清掃業務を開始して以来、100年以上にわたり廃棄物処理に携わってまいりました。この間、地球温暖化や環境汚染など、人類の生命を脅かす深刻な環境問題が世界中で顕在化しています。SDGsやパリ協定など、グローバルな意識改革が進む中、中野運輸として「何ができるのか」を常に自問自答しています。日本国内でも、土壌汚染や不法投棄が繰り返されるたびに、廃棄物に関する法律や条例が厳格化されてきましたが、残念ながら不法投棄の根絶には至っていません。当社では個人の環境への意識を変えるため、まず従業員に対し分別意識の重要性を指導するところからはじめ、各家庭や取引先企業に対して分別やリサイクルの必要性を丁寧に説明し、定期的な対話を通じて理解を深めていただく取り組みを行っています。これにより、環境に配慮した社会づくりに少しでも貢献したいと考えています。近年、環境対策に積極的に取り組む企業が増加しているのも事実です。当社では、廃プラスチックや金属だけでなく、紙資源、廃油、プラスチックハンガーなどのリサイクル方法についてのご相談を受け、排出事業者、収集運搬業者、リサイクル業者による3社共同で、廃棄物を一切出さないリサイクルルートを確立しました。今後も皆様のご期待に応えられるよう、新しいリサイクル手法を模索しながら、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



代表取締役社長
松原 美紀子

目次

代表挨拶	1
会社概要/保有許可	2
沿革	3
経営理念/社風	4
事業内容(収集運搬)	5
事業内容(積替保管/中間処理)	6
事業実績	7
安全衛生/安否確認システム/熱中症対策	8
AED/BCP/各種講習会・従業員教育	9
福利厚生/社内コミュニケーション	10
社会貢献活動	11
ゼロエミッション/ISO14001/産廃エキスパート	12
地球温暖化報告書/グリーン購入/低公害車導入/エネルギー使用推移	13
エコドライブ/パートナーシップ構築宣言	14

SDGsの
取り組み

会社概要

会社名	中野運輸株式会社	 ホームページ
本社	▶車庫・整備工場 ▶丸山積替作業場所(中野区資源ゴミ積替施設) ▶丸山中継所(粗大ゴミ積替保管施設) ▶家電4品目中間集積所 〒165-0021 東京都中野区丸山1-2-1 電話:03-3387-4356(代表) FAX:03-3387-4359	
足立リサイクルセンター	▶産業廃棄物中間処理施設 〒123-0874 東京都足立区堀之内1-1-11	
代表者及び役員	代表取締役社長 松原 美紀子(令和元年6月3日就任) 取締役 松原 軍次(令和元年6月3日就任) 監査役 水田 美津子(平成30年6月28日就任)	
設立年月日	昭和18年8月23日(昭和48年社名変更)	
資本金	28,000,000円	
従業員	約100名	
事業内容	東京23区清掃事業 一般廃棄物収集・運搬(積替保管含む)	産業廃棄物収集・運搬、及び処理 廃家電製品処理事業 リサイクル事業
主要取引先	東京二十三区清掃協議会、他 大手企業、百貨店、商店会 等	
主要取引銀行	日本政策金融公庫新宿支店 三菱UFJ銀行 西京信用金庫沼袋支店 きらぼし銀行江古田支店 商工組合中央金庫新宿支店 東京厚生信用組合新宿支店 東京シティ信用金庫	
所属団体	一般社団法人日本環境保全協会 一般社団法人東京環境保全協会 東京都環境衛生事業協同組合 一般社団法人東京都産業資源循環協会	

保有許可

産業廃棄物収集運搬業

No	都道府県	許可番号	許可品目												
			燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶くず
1	東京都	13-10-046986		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	神奈川県	1401046986		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	千葉県	1200046986		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	埼玉県	1107046986		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

産業廃棄物処分量

No	都道府県	許可番号	許可品目												
			燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶くず
1	東京都	13-20-046986						○						○	

古物商 東京都公安委員会許可 許可番号 第304400106443号

沿革

- **1922** (大正11年) 8月 松原組名義にて清掃に関する営業開始
- **1932** (昭和7年) 11月 東京都とごみ収集運搬の請負契約を締結
- **1936** (昭和11年) 5月 合資会社松原組を設立
中野清掃組合を組織し、
東京都とゴミ及び糞尿の収集運搬請負契約を締結
- **1943** (昭和18年) 8月 中野清掃株式会社を設立
- **1947** (昭和22年) 8月 運輸省より特定貨物自動車運送事業の経営免許交付
東京都とゴミ及び糞尿の収集運搬請負契約を締結
- **1959** (昭和34年) 伊勢湾台風の被災地救援を支援
- **1972** (昭和47年) 8月 運輸省より一般区域(限定)貨物自動車運送事業として新たに免許交付
- **1973** (昭和48年) 12月 中野運輸株式会社に社名変更
- **1983** (昭和58年) 三宅島噴火による被害からの復旧を支援
- **1986** (昭和61年) 一般廃棄物収集運搬事業許可取得(東京都)
- **1992** (平成4年) 6月 産業廃棄物収集運搬事業許可取得 東京都(13-10-046986)
- **1995** (平成7年) 阪神・淡路大震災、被災地救援を支援
上野地区にて、事業系ゴミの深夜・早朝収集システム開始
- **2001** (平成13年) 廃家電製品処理事業許可取得
- **2002** (平成14年) 9月 産業廃棄物収集運搬事業許可取得
埼玉県(1107046986)、千葉県(1200046986)
- **2003** (平成15年) ISO14001認証を取得
- **2004** (平成16年) 6月 新潟・福島豪雨災害、被災地救援を支援
新潟・中越地震、被災地救援を支援
- **2005** (平成17年) 廃棄物再生事業者登録証明書取得(発泡スチロールの再生事業)
- **2011** (平成23年) 東日本大震災被災地支援
8月 資本金を2,800万円に増資 東日本大震災救援支援
9月 産業廃棄物収集運搬事業許可取得 神奈川県(01401046986)
- **2013** (平成25年) 5月 足立リサイクルセンター開設
6月 産業廃棄物処理事業許可取得 東京都(13-20-046986)
- **2017** (平成29年) 12月 東京都優良評価制度「産廃エキスパート認定」取得
- **2019** (令和元年) 6月 松原 美紀子が代表取締役社長に就任
- **2022** (令和4年) 8月 中野運輸創業100周年記念



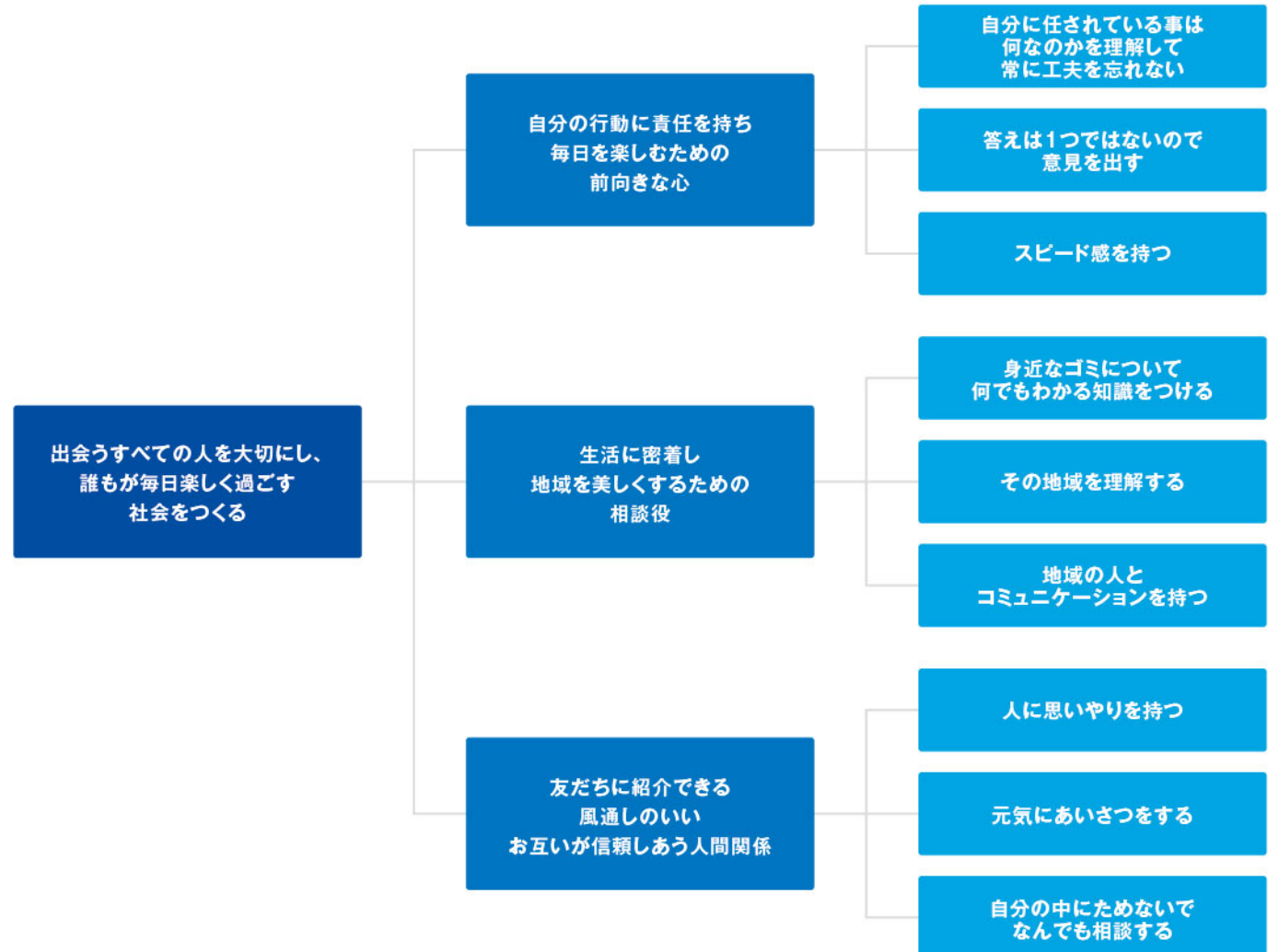
1943年頃の写真



昭和中期の写真

経営理念

中野運輸株式会社は、お客様のお役に立てるよう努力します。



社員の一人ひとりが誠実で丁寧な仕事を通じて、お客様のお役に立ちます。資源の無駄を省き、併せてお客様の利益につながるコスト削減に努めます。従来からのエコ努力をさらに進めて、先進のリサイクル手法に取り組みます。環境関連法規・協定を遵守し、企業の社会的責任を果たします。迅速・柔軟なサービスで、多様なニーズにチャレンジしつづけます。中野運輸の前身は関東大震災の前年に発足。大正・昭和・平成と変貌する首都圏の廃棄物処理に一貫して関わってきました。諸条件の変化にもすばやく対応できるフットワークこそ、伝統の誇りです。

社風

中野運輸(株)はいつでも友達を紹介できる職場づくりを目指して、従業員同士のコミュニケーションを大切にしています。社内イベントを通じて絆を深めたり、和気あいあいとした社内にもここぞというときには社員全員が一丸となって目標に向かっていく、そんな会社を作りたいと私たちは考えています。だからこそ、勤務時間以外の時間は仕事を忘れて全力で自分の時間を楽しんで欲しいのです。それが、モチベーションとなって最高の仕事につながると信じているから…。

事業内容

収集運搬

適材適所、豊富な車種で安全と効率を追求

荷物の量だけでなく、運ぶ物の種類に応じて適切な車両を選びます。
環境に配慮しつつ、お客様のご負担を最小限に抑えるサービスを心がけています。

- 定期回収

飲食店や小売店、オフィスなどの事業所から排出される廃棄物を定期的に回収します。
- スポット収集

粗大ごみやイベントごみの回収など、スポットで発生する廃棄物を回収します。
- 廃家電回収

家電リサイクル対象品（テレビ・洗濯機・冷蔵庫・エアコン・衣類乾燥機）を回収します。



保有車両一覧

東京23区清掃事業収集運搬業				産業廃棄物・一般廃棄物収集運搬業（民間）			
車種	台数	車種	台数	車種	台数	車種	台数
中型プレス	4	小型ダンプ車	3	大型バッカー車	2	アームロール車	1
小型プレス	38	軽ダンプ車	10	3tバッカー車	7		
小型排出車	4	平ボディ車	2	2tアルミ車	6		
回転板式	15	大型ダンプ車	5	軽貨物車	1		
糞尿車	2			4tプレス車	5		
軽貨物車	13	合計	96	平ボディ車	3	合計	25

積替保管

適切な保管と分別、圧縮処理で資源化を推進

本社積替保管施設
排出事業者から収集した廃棄物を積替保管施設で手選別し、不適切な混入物の確認・分別を行っています。これにより、リサイクル率の向上と環境負荷の軽減に努め、分別後は足立リサイクルセンターをはじめとする中間処理場や最終処分場へ出荷しています。



産業廃棄物の種類	保管形態	保管量
木くず	コンテナ1台	1m3
がれき類	コンテナ1台	1m3
紙くず、繊維くず	コンテナ1台	1m3
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	コンテナ2台	2m3
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（廃蛍光灯（水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	ドラム缶1本	0.32m3
	プラスチックケース2個	0.06m3
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（廃HIDランプ、廃放電ランプ（いずれも水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	プラスチックケース1個	0.03m3
汚泥、金属くず（廃水銀電池、廃空気亜鉛電池（いずれも水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	プラスチックケース1個	0.04m3

積替保管フロー図



中間処理

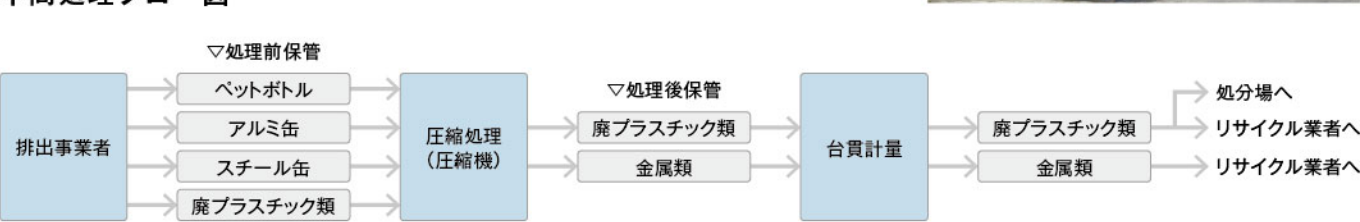
足立リサイクルセンター

分別された処理前廃棄物に圧縮処理などの中間処理業務を行い、リサイクル業者等へ出荷しています。

産業廃棄物の種類	施設種類	処理能力(日)
廃プラスチック類	圧縮梱包	2.44t
金属くず	圧縮	3.84t
スチール缶	圧縮	3.84t
アルミ缶	圧縮	1.29t



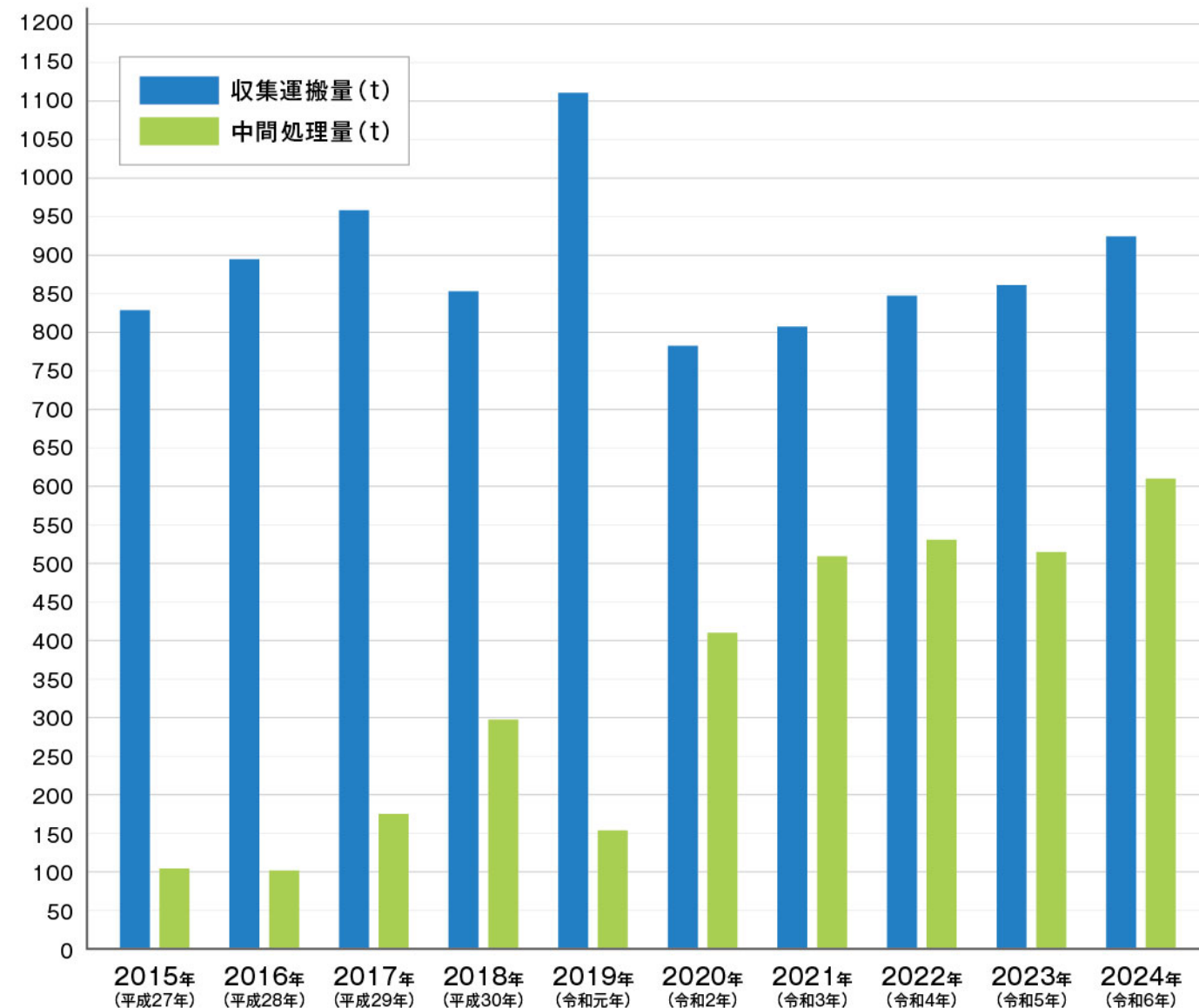
中間処理フロー図



事業実績

中野運輸は100年以上にわたり廃棄物の収集運搬事業を展開し、地域社会の清掃と清潔な環境づくりに貢献してきました。以下のグラフは、過去10年間（2015～2024年）の産業廃棄物収集運搬量および中間処理量の推移を示したものです。中間処理（リサイクル）量は年々増加傾向にあります。

産業廃棄物収集運搬量及び中間処理量



総運搬処理量（2015～2024年）



収集運搬実績
8,895t



中間処理実績
3,417t

廃棄物を資源に、SDGsの第一歩を

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



中野運輸はSDGs（持続可能な開発目標）を事業活動の指針のひとつとし、廃棄物の運搬と処理を通じて、環境保全と社会課題の解決に取り組んでいます。私たちの取り組みは、廃棄物を資源として再生し、循環型社会を構築するだけでなく、地域社会や従業員、ステークホルダーとの協働を通じて、持続可能な未来を形作ることを目指しています。



安全衛生

- 毎月1回、安全衛生管理者を中心に産業医および各部署の責任者により安全衛生委員会を開き、直近で起こった事故や労働災害事例を報告、原因究明と今後の再発防止について話し合い、情報共有を行っています。
- 毎年1～2回の健康診断を実施。診断結果によって産業医による個別面談を行い、食生活や健康維持に関して指導、アドバイスを実施しています。

安否確認システム導入

- 大地震や災害発生時、大手警備会社のシステムを通じて全従業員に安否確認メールを自動送信します。未返信者を迅速に把握できるため、速やかな対応が可能です。

熱中症対策

- 夏季の厳しい暑さから従業員の健康と安全を守るため、以下の熱中症対策を徹底して実施します。
- エアコン点検: 5月～6月に全車両のエアコン作動状況を確認。
- 熱中症対策: 6月～10月の暑さが厳しい時期に、全作業員へ塩飴やペットボトル飲料を無料配布。
- 健康管理の徹底: 朝礼時に休憩時間の確保や適切な水分補給を呼びかけ、体調に異変を感じた場合は作業を即時中止し、報告することを義務付け。



AED（自動体外式除細動器）設置

- ・社内にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。AEDは、心停止時に心臓に電気ショックを与えて正常な心拍を回復させるための医療機器で、迅速な対応により命を救う可能性を高めます。従業員、来訪者、地域社会の皆様の安全を確保し、緊急時の備えを強化しています。



BCP（事業継続計画）

- ・BCP（事業継続計画）を策定。大規模災害発生時に迅速に対応することで、事業をできる限り早急に復旧することを目的とした具体的な計画書を作成しています。



各種講習会・従業員教育

- ・従業員の安全意識の向上と職場でのスキル向上を目的に、以下の講習会・教育プログラムを実施しています。
- 交通安全講習会:事故画像を用いた講習や警察官を招いた外部講習を実施。
- 消防訓練:消防署員による火災発生時の訓練を実施。
- ハラスメント講習会:専門講師によるセクシャルハラスメントやパワーハラスメントの事例に基づく講習を実施。
- スキル向上研修:コミュニケーション研修や自己啓発セミナーを通じて、社会人としてのスキルを身に付ける。



福利厚生充実

- ・すべての従業員が働きやすいと感じる職場環境づくりのため、充実した福利厚生を用意しています。

【主な福利厚生の例】

- ・チケットレストラン:コンビニやファミリーレストランで利用可能なクレジット型電子マネーを支給。
- ・補助型自動販売機:カフェスタイルの休憩室に設置された自動販売機で、会社の一部補助により軽食や冷凍・冷蔵食品を低価格で購入可能。
- ・イベントの開催:会社主催のイベントを通じて、従業員の日頃の頑張りを称え、交流を促進。



社内コミュニケーション

- ・円滑な社内コミュニケーションを通じて、従業員の連携とモチベーション向上、情報共有の促進、職場環境の改善、組織全体の生産性向上を実現します。



社会貢献活動

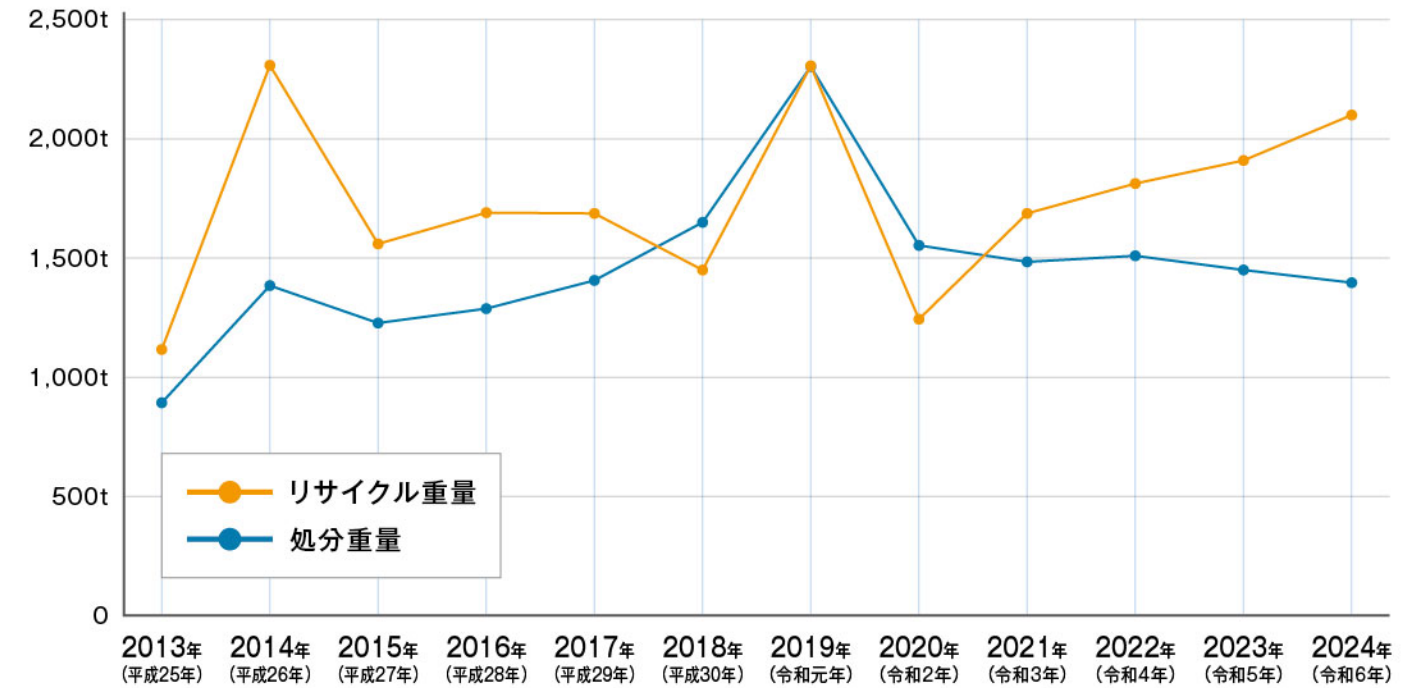
- ・地域社会の安全と発展に寄与するため、災害復旧支援や地域美化活動を通じて積極的に社会貢献活動を実施しています。
- 災害復旧支援:大地震などの大規模災害が発生した際、被災地へ救援物資を届け、車両や人員を派遣するなど、積極的な復旧支援の実施。
- 地域美化と交流:地元商店街で地域住民と協力してゴミ拾いなどの美化活動や、消防訓練の見学などを実施し、地域コミュニティとの交流を活性化。



ゼロエミッション

- ・ゼロエミッションの実現を目指し、廃棄物のリサイクルを最大化する取り組みを継続しています。過去12年間(平成25～令和6年)のリサイクル量は、1,135tから2,100tへ増加しています。

リサイクル推移表



ISO 14001

- ・国際標準化機構が定めるISO 14001は「アジェンタ21」を確実にフォローする目的で1996年に定められた環境マネジメントシステム規格です。組織(企業)が積極的に環境方針と目的を定め、PDCAサイクルを繰り返すことで継続的改善を実現します。中野運輸は2003年にこのISO 14001 認証を取得し、より一層の環境負荷の低減に取り組んでいます。

産廃エキスパート

- ・産業廃棄物の収集運搬および処理において「第1種評価基準適合業者」の認定を取得しています。この認定は、環境省が定める厳格な基準に基づき、産業廃棄物の適正処理、資源循環の推進、環境法令の遵守を徹底する企業に与えられるものです。中野運輸では、廃棄物の適正処理とリサイクルを推進することで、環境負荷の低減と資源の有効活用を実現しています。



地球温暖化報告書提出

- ・地球温暖化対策報告書を提出しています。重点対策として「地球温暖化対策の方針等の設定」「温暖化対策推進担当の配置」「全従業員に温暖化対策情報の提供」を行い、特に夏の節電対策として、照明をLEDライトに変更し、消費電力を抑えています。

「地球温暖化対策報告書制度」とは？

東京都環境局の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に基づき、中小規模事業所が自らのエネルギー使用量や温暖化対策を東京都に報告することで、環境意識の向上と具体的な対策の推進を目指す制度です。報告書の内容は公表され、事業者の環境配慮の取り組みが可視化されています。

グリーン購入

- ・事務用品購入時などにグリーン購入法適合マークの付いた商品を選択しています。

「グリーン購入法」とは？

グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)は、環境負荷の低減と持続可能な社会の実現を目指し、国や地方公共団体が環境に配慮した製品やサービスを優先的に購入することを義務付ける法律です。この法律は、公共機関が率先して「グリーン購入」を推進することで、民間企業や消費者にも環境配慮型の購買行動を促し、市場全体の環境意識向上を図ることを目的としています。

低公害車導入

- ・排気ガスやCO2排出低減の観点から、環境にやさしいハイブリッド車などの低公害車を導入し、積極的な環境負荷の低減に取り組んでいます。



合計
96台
※25年8月現在

- ・東京23区清掃事業収集運搬業の用に供する運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

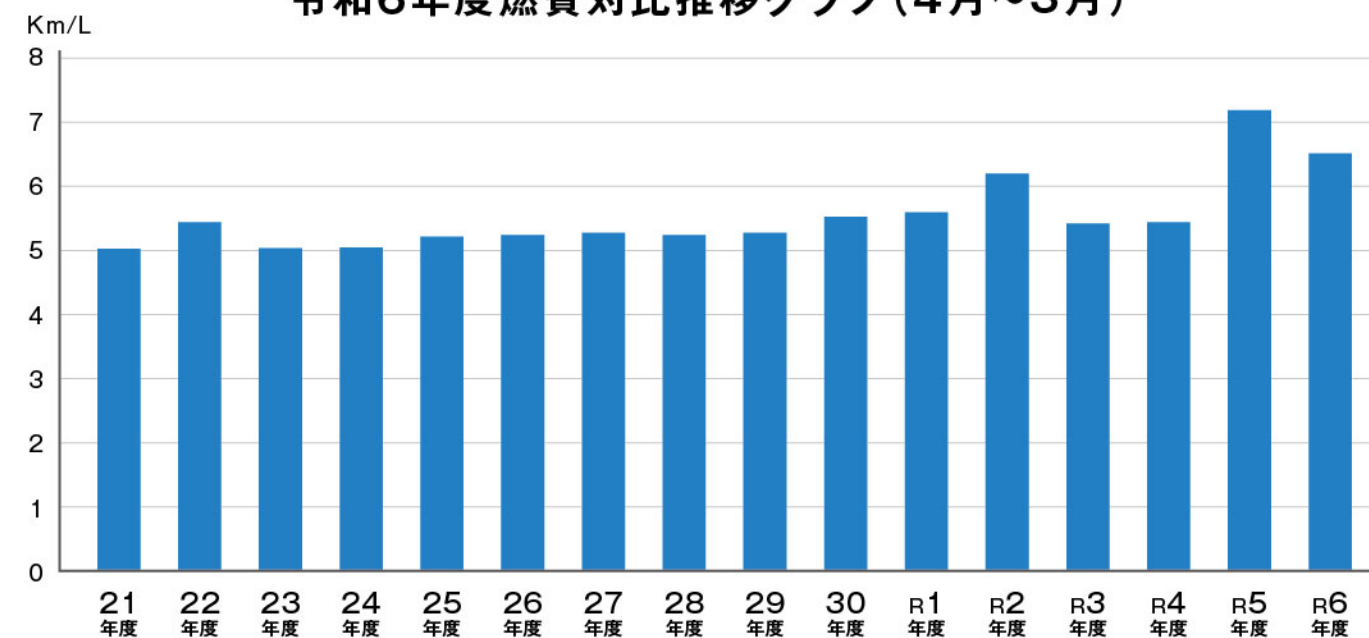
エネルギー使用推移

- ・過去3年間(令和4~6年度)の電気、水道、ガスのエネルギー使用量データを詳細に把握しています。事業所ごとの使用量推移を毎月モニタリングすることで、消費パターンを可視化し、効率化の機会を特定しています。

エコドライブ

- ・環境負荷の低減と安全な運転を目指し、毎年3~4回の交通安全講習会を実施しています。この講習会では、環境に配慮したエコドライブの徹底を図り、現場作業員に対し、燃費向上やCO2排出量削減につながる運転技術の教育を行っています。

令和6年度燃費対比推移グラフ(4月~3月)



パートナーシップ構築宣言

- ・サプライチェーンの取引先や価値創造を目指す事業者との連携・共存共栄を通じて、新たなパートナーシップを構築し、以下の取り組みを推進します。

1. サプライチェーン全体の共存共栄と新たな連携
直接の取引先を通じてその先の取引先に働きかける(「Tier N」から「Tier N+1+1」へ)ことにより、サプライチェーン全体で付加価値向上を目指す。企業規模や既存関係を越えた連携を構築し、テレワーク導入やBCP策定支援、デジタル化による相乗効果創出、廃棄物再資源化や再生可能エネルギー活用を推進し、持続可能な社会を実現。
2. 振興基準の遵守
下請中小企業振興法の「振興基準」を遵守し、公正な取引慣行を確立。
 - 価格決定: 不合理な原価低減を求めず、年1回以上の協議で適正利益を確保。コスト高騰時は全額転嫁を目指す。契約条件は書面で明示。
 - 支払条件: 下請代金を現金で支払い、手形使用時は割引料等を下請事業者の負担とせず、支払サイトは60日以内とする。
 - 知的財産・ノウハウ: 片務的契約や無償譲渡を求めず、ガイドラインに基づく取引を実施。
 - 働き方改革への配慮: 短納期発注や急な仕様変更を避け、災害時には取引継続に配慮。

